

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
 編集者：代表幹事 高橋 賢一  
 連絡先：市民活動支援センター  
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
 (渋川福祉センター内)  
 TEL 0561-51-2878

下ろレブラ  
 ンス通の作  
 家や文化  
 人がエッセ  
 ーを寄せて  
 いる。  
 パリの街で  
 「買い物リ  
 ト」を手に  
 高級店へ  
 大挙する  
 日本人観光  
 客にも触  
 れる。



「パリは東京に似てきた」。  
 創刊から3年後の1989年8月雑誌「東京人」はえんな特集を組んだ。  
 文化の中心を自負するパリと、文化の中心を目指す東京は「ケラケラんすは遠し」と嘆いた詩人の時代と遠い極めて身近な街になりました」と編集後記に記す。  
 ・ウオーグ誌の表紙で知られる写真家のウリアム・ライオンがパリを撮り



バブル景気の盛りで経済も文化も自信にあふれていた。花の都が東京に似てきた。とまで言う功にのみた。川のある街という点でも似ている。隅田川とセーヌ川が友好河川提携を結んだのも89年のことだ。そのセーヌを中心にも、前回の東京からパトンを継ぐ。パリ・オリゾンクが開かれてくる。パリは東京と同じ問題に頭を悩ませる。30度を超す、猛烈な暑さである。

熱中症の症状を訴える選手もいるぞ。東京大会ではあまりの暑さに「死んだら責任をとられるのか」とロシワの選手が訴えて、世界気象機関(WMO)によれば欧州で暑さに関連の死者は過去20年で30%増加気温の上昇は世界の課題だ。直夏の大会の安全な運営という試練は東京、パリ、次の都市にも降りかかる。

